

2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立階上小学校

採択活動名

「豊かな海，気仙沼」見つめよう，考えよう，気仙沼の水産業

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 自然大好き！ぼくらの階上（岩井崎の秘密を探ろう）	3	総合
2. 一粒の米を追って	4	総合
3. 「豊かな海，気仙沼」見つめよう，考えよう，気仙沼の水産業	5	総合
4. 水産業のさかんな地域	5	社会
5. 魚のたんじょう	5	理科

取り組みの概要

本校の海洋教育では、低学年の生活科において地域の自然に触れることで、そのよさに気付くことを土台として、中・高学年において、郷土の豊かな自然環境や生活を営む人々に関わり合うことで、「郷土の環境や食文化・人とのかかわりを見つめ、水分の在り方を考え」、「持続可能な郷土の担い手を育む」ことを、教科横断的な学習を通して理解を深めながら取り組んでいる。

そこで、地域の主たる産業である水産業と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かしながら、人々の工夫や努力によって支えられていることに気付き、海と共に生き、ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域となるために、様々な今日的課題を創造的に考え、探究し、発信しようとする児童の育成を目指している。

【「海に親しむ」活動】

○岩井崎の秘密を探る

気仙沼水産試験場の方を講師にお招きし、学区内になる岩井崎の潮だまりで生物調査を行った。今年度は9月に行ったため、昨年と比較することは難しかったが、タコや小魚など、多くの生物がいることを知ること、地域のよさに気付くことができた。

一方で、海水温が高いことを実感したり、海岸に打ち寄せられている海洋ごみを目の当たりにしたりすることで、「地球温暖化」や「海洋ごみ問題」について考えるきっかけとなり、探究学習へとつながった。

【「海を知る」活動】

○「豊かな海」は「豊かな森」から

海の豊かさの秘密を探るために、NPO法人「森は海の恋人」副理事長の畠山信氏から、養殖の牡蠣やホタテが育つためのエサとなるプランクトンにとって必要な「栄養塩類」が必要であることを教えていただいた。その栄養は、海から遠く離れた森の腐葉土の中で作られることを知った。

さらに、「豊かな海」につながる「豊かな森」を知るために、野外宿泊学習で訪れた一関市のブナの原生林を散策し、森の中の腐葉土の感触を確かめた。また、腐葉土を作り出す土壌生物について、

校庭の土と比較しながら調査したことにより、「豊かな森」から栄養分を含んだ水が川となって流れて「豊かな海」に注ぎ、気仙沼・階上の養殖業に大きな恩恵を与えていることへの理解を深めた。

【「海を守る」活動】

○親子で学ぶ「海の環境」講座の開催

社会的にも問題になっており、岩井崎の生物調査でも実際に体験してきた「海洋ごみ」について考えるために、岩手大学の梶原昌五准教授を講師にお招きし、「マイクロプラスチックごみ」について親子で考えた。気仙沼の特産品でもある「ホヤ」について環境の視点から教えていただいた。さらに、プランクトンとイワシ、イワシとカツオ、カツオと人間という食物連鎖についてワークショップを行いながら「人間が捨てたものが、再び人間に戻ってくる」ことを理解した。

【「海を利用する」活動】

○ワカメの養殖体験

階上地区漁協青年部千尋会の御協力により、年間を通したワカメの養殖体験活動を行っている。この活動を通して、地元の特産品であるワカメの養殖業に携わる人々の思いに直接触れることができる。ワカメの「種付け」「種ばさみ」「刈り取り」等の作業を体験することで地域を知り、また、海水温の上昇や自然災害などの環境が生育に大きな影響を及ぼすことを知る機会にもなった。それに対応するための工夫についても直接聞くことができた。

活動中の写真（別ファイルにて添付）